

「日本人は本当に幸せですか？」

舛添都知事の弁明が続き、次々とボロが出てきています。公私混同の姿勢に驚く都民、いや日本人も多いことでしょう。数年前の一部の世論調査によれば、首相にしたい候補のNo.1だったという。

著書も多い。筆者も10年ほど前に氏の書いた本を2冊ほど購読し、その斬新な思考に感銘しノートにメモしたほどでした。

でも、唱える理想や理念と、政治家としての現場での取り組みの一部が反対になってしまった。自身の「政治家はこうあるべきだ」との主張とは裏腹の姿に余計にマスコミに追及されているのでしょうか。

ここで思い起こされるのが2ヶ月前に来日し、その清貧な政治姿勢が話題になったウルグアイの前大統領、ホセ・ムヒカ氏。来日時に、たまたま高校の同期仲間とスペイン語通訳の友人から「見るに値する番組だから・・・」との連絡もあって特集番組（1時間45分）を視聴しました。

80歳。親しみのある好々爺の奥には何年もの投獄や拷問に耐えてきた強さがあるからなのでしょう。ご覧になった方も多いと思いますが、番組は東京外国語大学での講演と池上彰氏との対談が中心でした。

大統領という地位にありながらも公邸ではなく、首都郊外の農場に暮らし、とてもつましやかな生活を送っていたため「世界一貧しい大統領」と言われているようです。収入の大半を寄付し、生活費として残すお金は10万円ほどで、個人的な資産は友人たちからの贈り物の古いフォルクスワーゲンだけだといえます。

書店に行くと氏に関する出版物が数多く並んでいます。名言集的なものが多いのですがその中から三つ：

「貧しい人とは、何も無い人ではなく、どこまでも欲しがる人のことを言うのです」

「私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです」



「日本人は本当に幸せですか？」

なにか終戦直後の自分たちの時代を思い出してしまいました。モノもなく貧しかったけれど幸せだった（不幸だとは思わなかった）。未来へ伸びしろがあったからかもしれません。今は成熟社会の難しさがある。数年前に来日したブータンの国王夫妻の国“幸福度No.1”の生き方を思い出してしまいます。自論の「物質文明の発展は必ずしも人間の幸福につながっていない」に思いを巡らした次第です。

かつて「本当の政治家は（自分の資産を政治活動につぎ込むため）土堀だけになる」また「ウソの政治家は任期中に一軒の豪邸を建てる」と聞いたことがあります。ムヒカ氏のような生き方は日本の政治家には無理なのでしょうか？この機会に自分の幸福の尺度も確認しておきたいと思っていますところでは。

